

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第48回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《科学・技術分野》

「平賀源内」に見る江戸後期の科学技術の実相

講師：大阪商業大学大学院教授 **石上 敏**先生

【講演要旨】 専ら蘭学（洋学）との強い関わりを云々される平賀源内（1729～1780）であるが、彼は蘭学の師系に属していない。20代の終わりに高松藩を去り、江戸に出て最初に入門したのは、のちに昌平黌となる林家の塾（儒学）であったし、国学の大家・賀茂真淵の門人録の中にすらその名を見ることができる。従来、源内の儒学との関わりは便宜的なものであり、彼の国学は本草学（薬学）の補助的な役割（名辞学）でしかないと言われてきたが、果たして本当にそうであろうか。本報告では、戯作と呼ばれて軽んじられてきたものの実は思想的言説の披瀝の場でもあった小説類（談義本）などを洗い直し、それらに示された源内の科学技術を支える思想的背景に迫りたい。さらに書簡などから窺うことのできる人的交流を加味しつつ、同時代（近世後期）の思想状況における源内の思想史的位置を改めて探ってみたい。その結果、たとえば大田南畝が「源内は学校をつくるために江戸に出てきた」と記した証言は決して看過し得ないことが理解できるであろう。科学技術一辺倒の人と思われてきた源内の思想家としての側面を考察すること、とりわけその今日的な意味は小さくないと考えるものである。

【講師紹介】 1959年静岡県生まれ。岡山大学大学院文学研究科修士課程修了、博士（文学）。東京都立大学大学院研究生、新見女子短期大学講師・助教授を経て、現在、大阪商業大学経済学部教授、同大学院地域政策学研究科教授、文化会本部顧問、商業史博物館運営副委員長。専門は日本文学・比較文化。著書に『平賀源内の文芸史的位置』（北溟社）『叢書江戸文庫・森島中良集』（国書刊行会）『万象亭森島中良の文事』（翰林書房、科研費助成出版）『東大阪今昔写真帖』（郷土出版社、監修）『東大阪市の昭和』（樹林舎、同）『西日本人物誌・仙厓』（西日本出版社、共著）『河内文化のおもちゃ箱』（批評社、同）などがある。

日時：2017年6月9日（金）18:00～20:30
会場：公益財団法人国際高等研究所
参加費：2,000円（交流・懇談会費用を含む）
定員：40名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）
申込：裏面のURLからお申込みください
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>
締切：2017年6月7日（水）

 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは…

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

